

で市内パレードをし、西関東大会出場で山梨球場に乗り込んだことです。相手校は後に巨人に入団した堀内恒夫投手の甲府商業、母校はエース岸野和海投手の力投も及ばず夢にまで見た甲子園出場はなりませんでした。生徒と応援団、保護者や関係者は涙を流しながら選手の健闘をたたえエールを送ったことは良い思い出です。

早朝から服装チェックをされた先生方に感謝しています。学校前の文具店のおばさんが作ってくれたラーメンは運動部の生徒には大変なご馳走でした。今では想像できませんが、飯能高校は一つのグラウンドに野球部約50人、陸上部約70人が汗を流して居ました。怪我もなく練習に励み、県大会等で好成績を挙げ母校の名を高めました。

昨年母校のチアダンス部が世界大会出場の時、50年ぶりに応援エールを送りました。私は70歳の身体、血圧も高く張り切りすぎると心配でしたが、昔取った杵柄と参加者の声援で無事終了できました。卒業して早50年経ちますが地元で商売を営んでおり、母校発展のために微力ですが応援したいと存じます。

「巨峰ぶどう」に魅せられて



22回卒
山下 富司
(飯能市在住)

これからは高校ぐらいは出ておかないとという気持ちと、近くの学校ならという両親の意見とで飯能高校に入学しました。いざ3年生になって自分の将来を考える時に困ってしまいました。私は精明の農家の長男として生まれました。当時、長男は家を継ぐとの考えがあり私も漠然とそうするものと思っていきました。しかし東京オリンピックが開催され、高速道路が出来初め、車にも乗れるとい高度成長の時代に入ってきました。大学を目指す人を除き、同級生はほぼ全員が会社や役所に就職していききました。農業に大変そうなのがつかず、もう一度農業について勉強しようと、埼玉県農業経営大学校に行く事にしました。卒業後借金をしてビニールハウスを建て、キュウリ、トマトの促成栽培をスタートしました。しかしすぐにオイルショックが襲って来て、石油をジャブジャ

ブ使う事で成り立つ栽培に行き詰まってしまうました。その頃近くに出来たゴルフ場でキャデアイのアルバイトをしていた時、売店で見えた「巨峰」というぶどうの大きさに驚き、一粒だけ食べさせてもらったそのおいしさ、「よし！これを作ろう」と決めましたが、それから悪戦苦闘の連続でした。栽培がむずかしく売り物が出来ない年もたびたび出来ても高級ぶどうおいそれとは売れませんでした。反対に社員の給料は年々上がって行きました。そんな状態で同級生ともだんだん疎遠になり、同窓会にも出席しなくなってしまいました。折れそうな気持ちの中にも「なにくそ」という気持ちと、ぶどう作りの仲間と、家族の支えで何とかここまで続けてこられました。去年には、教師をしていた息子が結婚して2人で私達の後を継ぐといってくれました。振り返って見ると、あの頃の楽しかった文化祭、仲間と登った山、写真にも興味を持っていました。そしてやさしい笑顔の小池久先生、遠い思い出となってしまった高校生活が一番心落ち着いて楽しかった時代に思えてならない。

温故知新



27回卒
内沼 博史
(飯能市在住)

「聖駕の御幸に光れる御山、天覧山の上き名を負ひて西辺の御空にそそり立てり」で始まる校歌は、私達の代で最後だったと記憶しています。二年前27回卒業生の同窓会を開催した際、校歌の大合唱になり、殆ど出席者が口ずさんでいました。あらためて校歌の素晴らしさを実感致しました。私は加治小学校、飯能第一中学校から飯能高校に進学しました。部活動は、小学生から続けてサッカー部に入部しました。当時の飯能は部活が盛んで野球部や陸上部、レスリング部等多くの部活が全国大会に出場していました。がサッカー部は、浦和や児玉など全国一のレベルの高い県だった事もあり良い成績は残せませんでした。狭いグラウンドで一生懸命ボールを蹴り、汗を流したチームメイトとの時間は今も良い思い出です。部活が終わって正門前の桜文堂で食べたキャベツ入りのインスタントラーメン、原屋で飲んだチェリオ、その味は今でも心に残っています。

また、部活同様クラス毎のまとまり、絆がとて強かったと思います。1年時の裏磐梯でのオリエンテーションや修学旅行、体育祭、文化祭などクラスの仲間と大いに楽しんだり汗を流した事、高三の夏に行った上高地へのクラス旅行など充実した高校生活を送れたのも良い仲間にも恵まれていたからだと思えます。私は平成17年に飯能市議会議員に初当選させて頂き、昨年は埼玉県議会議員に初当選させて頂きました。市議会議員時代から飯能高校の諸先輩や同級生の皆様に公私共に大変お世話になりました。大きなお力を頂きました。今飯能市は、飯高の先輩の大久保市長を中心に同じく先輩の砂長議長、加藤前議長、鳥居議員、平沼議員、同級生の野田埼玉西部消防組合議長、後輩の中元議員や多くの市民の皆様と力を合わせて日本一のまちづくりに邁進しています。これからも飯能市の未来を担って行く飯能高校を始めとする若い世代の皆様を応援してまいります。